

I 研究の概要

1 研究主題

「 児童の主体性と個性を生かした自己肯定感の育成 」

～ 海洋教育における表現活動を通して ～

2 主題設定理由

本校では、令和元年度から特別の教科・道徳科の研究に取り組んできた。「主体的で深い学びに向かう児童の育成」をテーマに「ねらいにせまるための発問の工夫」、「考え・議論する道徳科の授業づくり」をしていく中で、道徳に関心を持つ児童が増え、児童同士で発言を受け入れる雰囲気が出てきた。自分の考えをもってペアやグループで共有したり、話型を活用して表現したりする等、主体的・対話的な部分に成果が見られた。しかし、児童の表現力に課題が残った。そこで、児童が自主的に調査・探求することができる教材を工夫することで表現力の向上につなげていきたい。

糸満市では、令和2年度より、糸満市教育委員会における「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の取り組みが始まった。昨年度は、「海人が活躍した糸満の海を学ぼう」をテーマに海洋教育を推進している。

本校でも、同様に海洋教育に取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症による臨時休業が相次ぎ、計画していた取り組みの見直しや中止を余儀なくされている。その中でも、教材に工夫を重ね、地域の方々と協働した地域資源を活用した探求学習やICTを活用した他県児童生徒とのオンライン交流学习、新たな学びの可能性を発掘してきているところである。

本年度（令和4年度）からは、本校の重点目標となった「海洋教育を柱にした創造性あふれる教育活動の展開」のため、本校の実態に即した独自の海洋教育のカリキュラム作りに取り組んでいく。学習環境を整備し、地域の教育資源を活用しながら、教科等を横断した学習活動を展開することで、児童が主体的に学び、表現する態度の育成の研究を推進する。

3 テーマの捉え方

(1) 【海洋教育とは】

海洋教育は「海洋と人との共生」という大きな課題に向かい、その実現に向けて必要な知識や技能を身に付け、行動できるような人材の育成を目指す。

(2) 【海洋教育の定義】

人類は、海洋からただいなる恩恵を受けるとともに、海洋環境に少なからぬ影響を与えており、海洋と人類の共生は国民的な重要課題である。海洋教育は、海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋の海洋教育の保全を図りつつ、国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能にする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指すものである。この目的を達成するために、海洋教育は海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進する。

(3) 海洋教育の4つのキーワードについて

海洋教育では「海に親しむ」ことから始まり、「海を知る」ことで海への関心を高めさらに海と人との共生のために「海を利用」しながら「海を守る」ことの大切さを学んでいく。

①【海に親しむ】

海豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海に対する豊かな感受性や海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んでかかわろうとする児童生徒を育成する。

②【海を知る】

海の自然や資源、人との深いかかわりについて関心を持ち、進んで調べようとする児童・生徒を育成する。

③【海を守る】

海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通して海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。

④【海を利用する】

水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また海を通した世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

(4) 自己肯定感

【児童】

- ・自己存在感を持つ。・自己有用感持つ。
- ・集団の中での存在意義を持つ。
- ・満足感・達成感を得る。
- ・お互いに認め合う。
- ・自分の成長に気づく。

【教師】

- ・共感的人間関係を構築する。
- ・支持的風土をつくる。

(5) 主体性

児童自ら課題を見つけ、考え、判断し、探究活動に取り組む。

(6) 個性

自ら見つけた課題について、学んだことや体験したことをまとめ、自らの言葉や絵、作品等を通して表現する。

4 研究構想図

児童の主体性と個性を生かした自己肯定感の育成 ～ 海洋教育における表現活動を通して ～

海洋教育

【海洋教育の定義】

人類は、海洋からただいなる恩恵を受けるとともに、海洋と環境に少なからぬ影響を与えており、海洋と人類の共生は国民的な重要課題である。海洋教育は、海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋の海洋教育の保全を図りつつ、国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能にする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指すものである。この目的を達成するために、海洋教育は海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進する。

【海に親しむ】

海豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海に対する豊かな感受性や海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海に自然に親しみ、海に進んでかかわろうとする児童生徒を育成する。

【海を知る】

海の自然や資源、人との深いかかわりについて関心を持ち、進んで調べようとする児童・生徒を育成する。

【海を守る】

海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通して海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。

【海を利用する】

水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

【主体性】

児童自ら課題を見つけ、考え、判断し、探究活動に取り組む。

【個性】

自ら見つけた課題について、学んだことや体験したことをまとめ、自らの言葉や絵、作品等を通して表現する。

表現力

【自己肯定感】

児童
・自己存在感を持つ。・自己有用感持つ。
・集団の中での存在意義を持つ。
・満足感・達成感を得る。
・お互いに認め合う。・自分の成長に気づく。
教師
・共感的人間関係を構築する。
・支持的風土をつくる。

【表現力】 ・学んだことや体験したこと、自分の考えや思いなどを言語や音楽、絵画などで、相手を意識して表現する力。

☆ 主体性と個性を生かした表現活動を通して、自己肯定感を高める。

本校の海洋教育の目標

- ①身近にある糸満の海を知り、親しみ、守り、利用するために、産業や伝統・文化に目を向け、調査・体験をする。
- ②課題を見つけ、解決方法や自分にできることを考え、発信する。

【低学年：目標】

- ①身近な海の自然に触れる体験や知る活動を通し、海に進んで関わろうとする態度を育む。
- ②身近な海について体験したことや知ったこと、感じたことを伝え合う。

【低学年：手だて】

糸満の海について調べたり体験したりする。海の自然物を利用した作品作りを通して、わかったことや感じたことを発表する。

【3学年：目標】

干潟観察や海人工見学などの多様な体験・探究活動を通して、糸満の海について知り、進んで調べたりそれを相手に伝えたりする。

【3学年：手だて】

身近な糸満の干潟観察や海人工見学、講話などを通して、課題を見つけ、調べ学習を進める。相手意識をもって調べたことをまとめ、発表する。

【4学年：目標】

身近にある糸満の海を知り、海に親しみ、海を守り、調査・体験したことから課題を見つけ、解決方法や自分にできることを考え、発信（表現）する。

【4学年：手だて】

- ①糸満の海岸（南浜公園）を散策し、海の生き物の環境を調査する。
- ②課題を見つけ、海の問題について考え、自分達にできることをまとめて発表する。

【5学年：目標】

海と環境と人との関わりについて調べたこと体験したことをまとめ、伝えたいことを工夫して発表できる。

【5学年：手だて】

- ①糸満の海の問題と人との関わりについて調べたり体験したりする。
- ②課題を解決するために考えたことや伝えたいことを工夫して発表する。（報告する）

【6学年：目標】

県内・市内の海に関係する仕事を調べ体験し、学んだことを自分思力で発信することができる。

【6学年：手だて】

海の仕事について、講師を招いて体験談を聞き、実際に自分たちで調べ課題を見つける。マリンスポーツを体験したり、地域の海岸を模索したり、気づき学んだことを工夫しながら発表につなげる。

段階①：知る 1学期

（主体性と個性を生かす）

- 教師の手だて
 - ・児童が自らの課題を見つけ主体的に動くための教材や体験活動を吟味する。活動計画を立てる。
- 児童の活動
 - ・自分のテーマを見つける。
 - ・課題解決に向けての探求活動を行う。（調べ学習、体験学習）

段階②：学び合う 2学期

（他者との関わりをもつ）（比べる）

- 教師の手だて
 - ・地域人材の活用。・振り返り活動の充実。
- 児童の活動
 - ・課題解決に向けての探求活動を行う。（調べ学習、体験学習）
 - ・学んだこと伝え合う。

段階③：深め合う 3学期

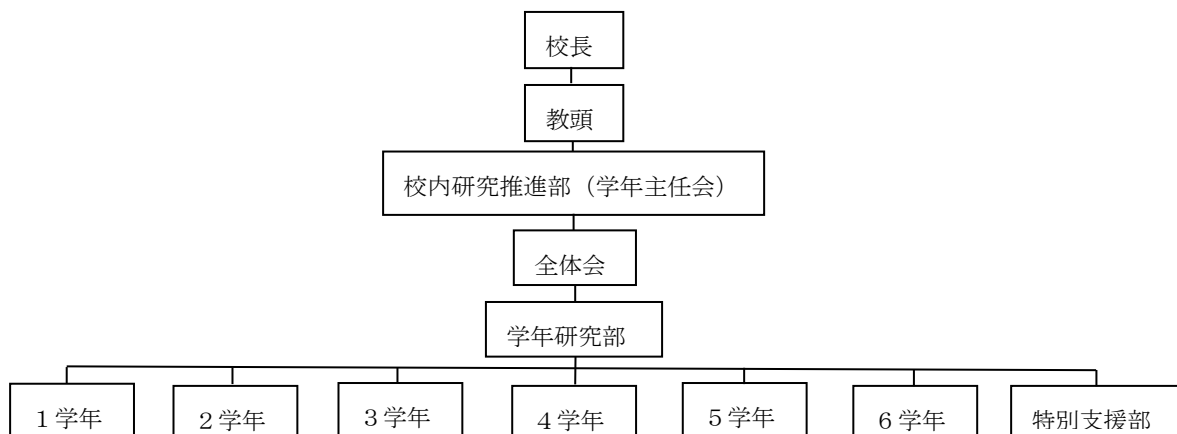
（表現する）

- 教師の手だて
 - ・相手を意識した発表の場面作り。練習。
- 児童の活動
 - ・学んだこと、体験したことをまとめ、発表する。（新聞、プレゼンテーションソフト、絵、工作、歌。。。等）

5 糸満南小学校 研究計画

月	日	曜	研修内容	形態
4/6 ~ 7/20			教材研究 1人1授業公開（授業参観）	全体 個人
4	4	月	取り組みの共通理解	職員会議
5	24	火	心肺蘇生法、AED使用実技講習（いずれか1日・予定） 総合（海洋教育・カリキュラムマネジメント）理論研 16:00～	全体
6	9 13	金 月	生徒指導研修（センター） 16:00～ 道徳研修（評価）	全体
7	25 26 28	月 火 水	【夏期研修】 道徳（授業作り）（事務所） インクルーシブ研修（センター） 英語研修（校内） 海洋研修（校内）	全体
8/25 ~ 12/24			教材研究 1人1授業公開（授業参観）	全体 学年 個人
9	13	火	性の多様性研修	全体
12			2学期の授業実践の振り返り 校内研・隣学年研究の成果とまとめ	学年
1	13	金	糸満市教育の日（授業参観・学習発表）	全体
	16	月	職員アンケート（校内研まとめ） 次年度校内研選考（1月中）	学年・全体
	26	月	R5教育計画提出	
	30	月	発達障害・愛着障害研修（センター）	全体
2	14	火	沖縄県到達度調査（5・6年）	
	20	月	電子黒板講習会	全体
3	7	火	実践の振り返り 成果と課題 研究紀要作成	全体

6 研究組織



Ⅲ 研究の成果と課題

視点1：主体性と個性を生かした取り組みについて

視点2：自己肯定感を高める表現活動について

【成果】

- ①身近な自然や文化的資材，地域人材を活用して，体験的・探究的活動を取り入れることで，児童が主体的に学習することができた。
- ②自分や町，身近な自然（海）の良さに気づき，それらを守ろうとする意欲を高めることができた（態度を育むことができた）。また，海の課題（環境問題）について向き合い，解決方法を考えようとする主体的な態度が見られた。
- ③ICTを活用し，学習したことを作品に表したり，グループで協力してまとめ，工夫して表現（発表）したりして交流することで，児童同士で認め合い，達成感を味わい，自己肯定感の高まりが見られた。

【課題と解決策】

- ①自己肯定感の高まりをはかる（見取る）ための工夫。
 - 年度始めと学習後でアンケートを取り，変容を見取る。
- ②児童が自発的に探究活動（児童一人ひとりの問いを大切にした学習）できるような手だて。
 - 興味関心を持たせる工夫。交流の場の設定。
 - 体験活動をもとに，児童一人一人に探究学習を計画する。
- ③主体性を生かした表現方法の工夫。
 - アウトプットする場や学び合いのできる場の設定。
 - 発表したくなる伝えたいような体験・探究活動を仕組む。
 - 発表方法の提示。

※その他（海洋教育に関する課題と解決策）

- ・地域に関する資料や地域人材（外部機関との連携）活用の計画。
 - 見通しをもった学習計画（全学年の系統性を持たせる）と単元構想を把握する。
 - 公共施設の活用。地域コーディネーターとの連携。
 - 副読本の活用した調べ学習。

①海洋教育を通じた地域素材や人材を生かした取り組みの充実が図られている

肯定的回答 2021(60%) 2022(59.4%)

②総合的な学習の時間では、地域のことについて学習を深めています

肯定的回答 2021(95.5%) 2022(96.8%)